



2026年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月9日

上場会社名 株式会社 物語コーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 3097 URL <https://www.monogatari.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 央之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 財務・成長戦略担当 (氏名) 津寺 毅 TEL 0532-63-8001
 半期報告書提出予定日 2026年2月9日 配当支払開始予定日 2026年3月9日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年6月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年7月1日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
2026年6月期中間期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期中間期	72,299	20.6	5,470	26.2	5,503	28.7	3,608	30.5
2025年6月期中間期	59,905	15.1	4,333	2.9	4,274	0.4	2,764	12.4

（注）包括利益 2026年6月期中間期 3,371百万円（22.7%） 2025年6月期中間期 2,745百万円（12.8%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
2026年6月期中間期	円 錢 93.67	円 錢 93.61
2025年6月期中間期	74.72	74.66

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年6月期中間期	百万円 82,289	百万円 43,096	% 52.2
2025年6月期	74,026	40,364	54.3

（参考）自己資本 2026年6月期中間期 42,993百万円 2025年6月期 40,250百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年6月期	円 錢 —	円 錢 18.00	円 錢 —	円 錢 18.00	円 錢 36.00
2026年6月期	—	20.00	—	—	—
2026年6月期（予想）	—	—	—	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年6月期の連結業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 147,159	% 18.7	百万円 10,771	% 16.5	百万円 10,600	% 17.3	百万円 7,416	% 20.4

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9 「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年6月期中間期	39,202,981株	2025年6月期	39,202,981株
② 期末自己株式数	2026年6月期中間期	672,533株	2025年6月期	684,599株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年6月期中間期	38,522,885株	2025年6月期中間期	37,002,241株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4 「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

（1）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善とインバウンド需要の増加が支えとなり、国内の消費活動は緩やかな回復の動きが続いております。一方で、原材料価格の上昇に加え、国際情勢の不確実性や米国の通商政策、為替相場の変動の影響などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況であります。

外食業界においては、継続的な物価高騰による消費者の節約志向が継続したものの、外食需要は堅調に推移いたしました。しかしながら、原材料価格や人件費をはじめとする運営コストの上昇も続いており、依然として厳しい経営環境が継続しております。

このような環境の中、当社グループは経営理念である「Smile & Sexy」と長期経営ビジョンの実現を目指し、2030年までの中期経営ビジョン「物語ビジョン2030」と「中期3カ年経営計画2026～2028」を策定いたしました。

新たな中期経営ビジョンにおいては、「業態開発型リーディングカンパニー実現に向けた全方位成長戦略」の実現に向けて、業態開発を軸に、既存ブランドの強化や新たな成長エンジンの創出に取り組み、国内外での事業拡大と売上・利益の最大化を図ります。成長戦略として、「業態開発力×人財力で勝ち抜く成長戦略」のもと、「選ばれるブランドづくり」「成長を加速させる新業態・新事業開発」「海外事業の拡大」を成長戦略のテーマに据えております。これらを踏まえて業態開発を進めるとともに、「人財力」を競争優位性かつ差別化要因と捉え、育成と活躍の取り組みを通して、持続的な企業価値の向上を目指しております。

「選ばれるブランドづくり」では、主力ブランドである『焼肉きんぐ』『丸源ラーメン』『寿司・しゃぶしゃぶ ゆず庵』において、ブランド競争力を強化するため、顧客体験価値の向上に取り組んでおります。具体的には、看板商品の磨きこみや期間限定フェアの開催、サービスの質を高める仕組みづくり、多様なニーズに対応した営業時間の拡大、既存店舗の内外装の改裝やテレビCMをはじめとするプロモーションの強化を実施いたしました。加えて、収益性の向上に向けて、都市型価格の導入などの価格改定の実施や、新型特急レーンの開発、配膳ロボットの導入台数を拡大するなどの店舗DX（デジタルトランスフォーメーション）への投資を継続いたしました。

これらの施策により、国内既存店（注）の当中間連結会計期間における売上高は、直営店において前年同期比3.9%増、フランチャイズ店において前年同期比2.6%増となりました。

店舗出店においては、国内36店舗（直営27店、フランチャイズ9店）、海外37店舗（直営24店、フランチャイズ等13店）の結果、当中間連結会計期間末における当社グループの店舗数は877店舗（国内784店、海外93店）となりました（後掲表2）。

「成長を加速させる新業態・新事業開発」では、主力ブランドに続く新たな収益の柱を育成すべく、焼肉ファストカジュアル業態『焼きたてのかるび』の展開を推進したほか、2025年7月には郊外ロードサイド型カフェ&ショッピング業態『果実屋珈琲』の3号店を出店いたしました。

「海外事業の拡大」では、中華圏、東南アジア、北米を注力地域と定め、ハンバーグ専門店『肉肉大米』を中国において積極的に出店したほか、2025年8月にはシンガポールに初出店いたしました。また、同月に『焼肉きんぐ』の海外1号店をフィリピンに初出店いたしました。さらに、タイなどの新たな地域への進出を進めております。

「人財力で勝ち抜く成長戦略」においては、「多様な理念型人財の採用と活躍」「個の覚醒とD&I」「プロフェッショナルリーダーの育成」をテーマに据えて、その実現に向けて注力しております。多様な理念型人財の採用や、教育・研修機会の拡充による理念経営の推進と能力開発に取り組み、従業員一人ひとりが自分らしくイキイキと働く企業文化の醸成を図っております。加えて、環境負荷の軽減やガバナンス体制の強化に向けたサステナビリティ戦略の推進やコーポレート機能の強化にも取り組んでおります。

以上の結果により、売上高72,299百万円（前年同期比20.6%増）、営業利益5,470百万円（前年同期比26.2%増）、経常利益5,503百万円（前年同期比28.7%増）、親会社株主に帰属する中間純利益3,608百万円（前年同期比30.5%増）となりました。

（注）国内既存店とは、新規開店より18カ月以上稼働している店舗と定義しております。

セグメント別の概況について

当社グループの事業は単一セグメントであるため、その概況をカテゴリー別に示すと次のとおりであります。なお、2026年6月期より開示しているカテゴリーを従来の7部門から新たに6カテゴリーへ再編いたしました。

表1 「新旧対比表」

(旧) 2025年6月期以前		(新) 2026年6月期以降	
部門	各部門に含まれるブランド等	カテゴリー	各カテゴリーに含まれるブランド等
焼肉部門	焼肉きんぐ	焼肉	焼肉きんぐ
ラーメン部門	丸源ラーメン 二代目丸源 熟成醤油ラーメン きやべとん	ラーメン	丸源ラーメン 二代目丸源 熟成醤油ラーメン きやべとん
お好み焼部門	お好み焼本舗	ゆず庵	寿司・しゃぶしゃぶ ゆず庵
ゆず庵部門	寿司・しゃぶしゃぶ ゆず庵	専門店・新業態	お好み焼本舗 焼きたてのかるび 魚貝三味 げん屋 しゃぶとかに 源氏総本店 熟成焼肉 肉源 牛たん大好き 焼肉はっぴい 果実屋珈琲 濃厚中華そば 餃子 丸福 熟成肉とんかつ ロース堂
専門店部門	焼きたてのかるび 魚貝三味 げん屋 しゃぶとかに 源氏総本店 熟成焼肉 肉源 牛たん大好き 焼肉はっぴい 果実屋珈琲 濃厚中華そば 餃子 丸福 熟成肉とんかつ ロース堂		焼きたてのかるび 魚貝三味 げん屋 しゃぶとかに 源氏総本店 熟成焼肉 肉源 牛たん大好き 焼肉はっぴい 果実屋珈琲 濃厚中華そば 餃子 丸福 熟成肉とんかつ ロース堂
F C部門	国内F C事業	F C	国内F C事業 その他事業
その他部門	海外事業会社 その他事業	海外	海外事業会社 海外F C事業

(注) F Cとはフランチャイズを指します。

①焼肉カテゴリー

当中間連結会計期間において、『焼肉きんぐ』は12店舗の出店（直営8店、フランチャイズ4店）を実施しました。これにより、焼肉カテゴリーの当中間連結会計期間末の店舗数は362店舗（直営231店、フランチャイズ131店）となりました。

以上の結果により、直営店の売上高は33,143百万円（前年同期比10.1%増）となりました。

②ラーメンカテゴリー

当中間連結会計期間において、『丸源ラーメン』は11店舗の出店（直営6店、フランチャイズ5店）、『熟成醤油ラーメン きやべとん』は1店舗の出店（直営1店）を実施しました。これにより、ラーメンカテゴリーの当中間連結会計期間末の店舗数は244店舗（直営135店、フランチャイズ109店）となりました。

以上の結果により、直営店の売上高は12,213百万円（前年同期比15.5%増）となりました。

③ゆず庵カテゴリー

当中間連結会計期間において、『寿司・しゃぶしゃぶ ゆず庵』は7店舗の出店（直営7店）を実施しました。これにより、ゆず庵カテゴリーの当中間連結会計期間末の店舗数は113店舗（直営97店、フランチャイズ16店）となりました。

以上の結果により、直営店の売上高は12,361百万円（前年同期比26.6%増）となりました。

④専門店・新業態カテゴリー

当中間連結会計期間において、『焼きたてのかるび』は4店舗の出店（直営4店）、『果実屋珈琲』は1店舗の出店（直営1店）を実施しました。これにより、専門店・新業態カテゴリーの当中間連結会計期間末の店舗数は65店舗（直営62店、フランチャイズ3店）となりました。

以上の結果により、直営店の売上高は4,464百万円（前年同期比23.4%増）となりました。

⑤フランチャイズカテゴリー

主にフランチャイズ加盟企業からの売上ロイヤルティ・加盟金・業務受託料等であります。当中間連結会計期間において、フランチャイズは9店舗の出店を実施しました。これにより、当中間連結会計期間末のフランチャイズ店舗数は259店舗となりました。

以上の結果により、売上高は3,877百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

⑥海外カテゴリー

主に連結子会社である「物語（上海）企業管理有限公司」、「PT. Agrapana Niaga Gemilang」、「物語香港有限公司」、「物語台湾股份有限公司」、「Storytellers USA, Inc.」による取り組みと、海外フランチャイズ加盟企業からの売上ロイヤルティ・加盟金・業務受託料等であります。当中間連結会計期間において、37店舗の出店（直営24店、フランチャイズ等13店）を実施しました。これにより、海外カテゴリーの当中間連結会計期間末の店舗数は93店舗（直営56店、フランチャイズ等37店）となりました。なお、「Storytellers USA, Inc.」およびその傘下6社は、前連結会計年度は貸借対照表のみを連結し、当中間連結会計期間より2025年4月1日～2025年9月30日の損益計算書を連結しております。

以上の結果により、売上高は6,238百万円（前年同期比187.5%増）となりました。

表2 「カテゴリー別店舗数の状況」

(単位：店)

カテゴリー	直営	F C等	2025年12月末 店舗数
焼肉	231	131	362
ラーメン	135	109	244
ゆず庵	97	16	113
専門店・新業態	62	3	65
国内計	525	259	784
海外	56	37	93
合計	581	296	877

(注) 「F C等」は、合弁会社を含む直営以外の形態を指します。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末の総資産は82,289百万円となり、前連結会計年度末と比較して8,263百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金が3,133百万円増加、有形固定資産が2,556百万円増加、売掛金が1,685百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債は39,192百万円となり、前連結会計年度末と比較して5,530百万円の増加となりました。これは主に買掛金が1,721百万円増加、長期借入金が1,706百万円増加、1年内返済予定の長期借入金が664百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産は43,096百万円となり、前連結会計年度末と比較して2,732百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金が2,915百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は52.2%（前連結会計年度末は54.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年6月期の通期の連結業績予想につきましては、2025年8月8日に公表いたしました内容に変更はございません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	12,520	15,654
売掛金	5,227	6,913
商品及び製品	753	1,095
原材料及び貯蔵品	148	173
その他	2,490	2,839
貸倒引当金	△1	△2
流动資産合計	21,139	26,674
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	31,681	34,549
リース資産（純額）	13	11
使用権資産（純額）	2,318	2,208
その他（純額）	7,464	7,264
有形固定資産合計	41,477	44,033
無形固定資産		
のれん	2,583	2,473
その他	1,202	1,223
無形固定資産合計	3,785	3,696
投資その他の資産		
差入保証金	6,337	6,570
その他	1,287	1,315
投資その他の資産合計	7,624	7,885
固定資産合計	52,887	55,615
資産合計	74,026	82,289

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流动負債		
買掛金	4,487	6,208
短期借入金	1,000	1,000
1年内返済予定の長期借入金	2,620	3,284
リース債務	191	196
未払法人税等	1,530	2,184
賞与引当金	446	441
株主優待引当金	252	298
店舗閉鎖損失引当金	0	21
その他	8,280	8,880
流动負債合計	18,811	22,516
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	8,310	10,017
退職給付に係る負債	893	912
リース債務	2,227	2,118
資産除去債務	1,130	1,222
その他	1,289	1,404
固定負債合計	14,851	16,676
負債合計	33,662	39,192
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,964	5,964
資本剰余金	5,778	5,797
利益剰余金	30,424	33,339
自己株式	△2,032	△1,996
株主資本合計	40,134	43,104
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	9
為替換算調整勘定	129	△102
退職給付に係る調整累計額	△21	△17
その他の包括利益累計額合計	115	△110
新株予約権	27	27
非支配株主持分	85	75
純資産合計	40,364	43,096
負債純資産合計	74,026	82,289

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
売上高	59,905	72,299
売上原価	20,637	24,563
売上総利益	39,267	47,735
販売費及び一般管理費	34,933	42,264
営業利益	4,333	5,470
営業外収益		
受取利息及び配当金	11	14
受取賃貸料	5	5
為替差益	—	124
協賛金収入	13	11
助成金収入	14	15
その他	24	30
営業外収益合計	69	203
営業外費用		
支払利息	21	133
賃貸収入原価	4	4
為替差損	16	—
棚卸資産廃棄損	49	—
その他	36	32
営業外費用合計	129	169
経常利益	4,274	5,503
特別利益		
保険金収入	—	131
特別利益合計	—	131
特別損失		
固定資産除却損	83	137
減損損失	—	34
店舗閉鎖損失	63	11
店舗閉鎖損失引当金繰入額	2	21
特別損失合計	148	206
税金等調整前中間純利益	4,125	5,428
法人税等	1,375	1,834
中間純利益	2,750	3,594
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△14	△14
親会社株主に帰属する中間純利益	2,764	3,608

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
中間純利益	2,750	3,594
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	1
為替換算調整勘定	△13	△229
退職給付に係る調整額	9	4
その他の包括利益合計	△4	△222
中間包括利益	2,745	3,371
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	2,762	3,382
非支配株主に係る中間包括利益	△16	△10

（3）中間連結財務諸表に関する注記事項

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。